



長野県立病院機構の令和2年度決算の状況がまとまりました

2年度は9億9百万円の純利益となりました
(医業収益は、前年度と比較して▲4億2千2百万円、▲2.4%)

1 延べ患者数の状況

	令和2年度	令和元年度	増減(増減率)	増減の主な要因
入院	216,067人	239,758人	▲23,691 (90.1%)	新型コロナウイルス感染患者受入れのための入院制限等
外来	372,020人	401,108人	▲29,088 (92.7%)	新型コロナウイルス感染拡大に伴う受診控え等

2 新型コロナウイルス感染症への対応(機構全体)

感染患者受入人数 ※カッコ内は、疑い患者	延べ日数 ※カッコ内は、疑い患者	主な対応等
348人 (うち64人)	3,049日 (うち173日)	・県内最多の感染患者受入施設として、常時入院患者に対応(信州) ・全国知事会からの要請により看護師を沖縄へ派遣(信州) ・クラスターが発生した東信地域の病院へDPATを派遣(駒ヶ根) ・長野、北信、上田など他地域患者の受入(約4割)(阿南) ・長野、上田、松本など他地域患者の受入(約5割)(木曽) ・小児重症患者受入体制の確保(こども)

3 令和2年度の主な取組

病院名	主な取組み
信州医療センター	総合内科医育成学講座開設に向けた信州大学医学部との協定締結
こころの医療センター 駒ヶ根	ゲーム・ネット依存症治療プログラムの開発、緊急避難的入院の受入
阿南病院	下伊那南部総合事務組合から引き継いだ訪問看護ステーションさくらの開設
木曽病院	地域がん診療病院としてR3年4月開設に向けた歯科口腔外科の整備
こども病院	小児アレルギー患者の診療・支援体制の構築

4 損益の状況

- ・医業収益は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、前年度比 ▲4億2千2百万円となりましたが、感染症対応に係る補助金等により、経常収益は254億2千1百万円で、前年度比 +15億5千8百万円となりました。
- ・経常費用は、245億1百万円で、高額な医療材料費等による影響で、前年度比 +4億9千5百万円となりました。
- ・経常損益は9億2千万円の利益、臨時損失を含めた当期純損益は、9億9百万円の純利益となりました。

(税抜、単位：百万円)

科目	令和2年度	令和元年度	令和2年度計画	増減(R2-R1)	増減(R2-計画)
経常収益(ア)	25,421	23,863	24,525	1,558	895
医業収益	16,980	17,402	18,120	▲422	▲1,140
その他経常収益	8,441	6,461	6,405	1,979	2,036
うち病床確保料等	1,658	0	0	1,658	1,658
経常費用(イ)	24,501	24,006	24,458	495	43
医業費用	22,457	22,034	22,403	423	54
その他経常費用	2,044	1,972	2,055	72	▲12
経常損益(ア-イ)	920	▲143	67	1,063	852
臨時損益(ウ)	▲11	▲5	0	▲6	▲11
当期純損益(ア-イ+ウ)	909	▲148	67	1,057	842

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。



地域の明日を医療で支える
地方独立行政法人 長野県立病院機構

長野県立病院機構本部事務局
(局長) 日向 修一 (課長) 玉舎 宏之
(担当) 氷熊 真也
電話 026-235-7152 (直通)
FAX 026-235-7161
E-mail honbu@pref-nagano-hosp.jp

令和2年度 長野県立病院機構の決算について

長野県立病院機構本部事務局

1 概要

- 経常収益：254 億 2 千 1 百万円（前年度比、+15 億 5 千 8 百万円）
 - ・ 医業収益は、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大による受診控え等の影響により機構全体で入院及び外来患者数が大きく減少し、前年度比で▲4 億 2 千 2 百万円減少し、169 億 8 千万円。
 - ・ 入院収益は、コロナ患者受入のための体制整備による影響等で、すべての病院で患者数が落ち込み、前年度比で▲4 億 7 千 7 百万円減少。
 - ・ 外来収益は、阿南病院で訪問看護ステーションの開設や無医地区診療所への巡回診療等、木曽病院で許可病床 200 床未満への削減及び在宅療養支援病院の取得による診療単価増により、前年度比で+35 百万円増加。
 - ・ 病床確保料等を含む約 21 億円の補助金収益の確保により、経常収益は前年度比で大きく増加。
- 経常費用：245 億 1 百万円（前年度比、+4 億 9 千 5 百万円）
 - ・ 働き方改革への対応等による職員の計画採用に伴う給与費の増加（前年度比、+3 億 2 千万円）
 - ・ 高額薬剤を用いた治療や高額な診療材料を伴う手術の増加による材料費の増加（前年度比、+1 億 3 千 4 百万円）
- 経常損益：9 億 2 千万円の利益（前年度比、+10 億 6 千 3 百万円）
- 当期純損益：9 億 9 百万円の純利益（前年度比、+10 億 5 千 7 百万円）
 - ・ 医療機器等の除却損等で▲1 千 1 百万円の臨時損失を計上

2 新型コロナウイルス感染症に対する県立病院機構の取組み

- ・ 令和2年度は、全国的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症への対応が最大の重点事項であったが、県立病院機構においては、県立5病院すべてが感染者等の受入れを積極的に行い、使命感を持って感染症医療を提供した。
- ・ 信州医療センターは、県内で最多の感染者の受け入れを行った。また、阿南病院及び木曽病院は、長野や上田など他地域からの患者を積極的に受け入れた。
- ・ 各病院においては、感染対策の徹底により院内感染の発生を未然に防いだ。また、オンライン面会や電話診療の実施により患者の利便性を図り、引き続き必要な医療の提供を行った。
- ・ 患者数は軒並み減少したが、新型コロナウイルス感染症の病床確保を行い、適切な感染症医療を提供したことにより病床確保料等の補助金収入があり、令和2年度決算は約9億円の純利益となった。

3 損益の状況

(1) 全体

(税抜、単位：百万円)

科 目	令和2年度	令和元年度	令和2年度計画	増減(R2-R1)	増減(R2-計画)
経常収益（ア）	25,421	23,863	24,525	1,558	895
医業収益	16,980	17,402	18,120	▲ 422	▲ 1,140
うち入院収益	11,926	12,403	12,685	▲ 477	▲ 760
うち外来収益	4,558	4,524	4,976	35	▲ 418
うち公衆衛生活動収益等	383	373	345	10	38
介護老人保健施設収益	371	355	365	16	6
看護師養成所収益	18	19	20	▲ 1	▲ 1
運営費負担金収益	5,510	5,480	5,510	30	0
その他経常収益	2,541	607	510	1,934	2,031
経常費用（イ）	24,501	24,006	24,458	495	43
医業費用	22,457	22,034	22,403	423	54
うち給与費	12,986	12,679	12,866	307	120
うち材料費	4,173	4,037	4,079	136	94
うち減価償却費	1,903	1,941	1,966	▲ 38	▲ 64
うち経費	3,346	3,314	3,407	31	▲ 61
介護老人保健施設費用	461	444	440	17	21
看護師養成所費用	155	152	166	3	▲ 11
一般管理費	347	340	372	7	▲ 25
財務費用（支払利息）	310	356	331	▲ 46	▲ 21
その他経常費用	770	679	746	91	24
経常損益（ア－イ）	920	▲ 143	67	1,063	852
臨時損益（ウ）	▲ 11	▲ 5	0	▲ 6	▲ 11
当期純損益（ア－イ＋ウ）	909	▲ 148	67	1,057	842

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

(2) 貸借対照表（要約）

(単位：百万円)

資産の部	金 額	負債の部	金 額
固定資産	22,151	固定負債	23,381
有形固定資産	22,083	資産見返負債	1,446
無形固定資産	49	長期借入金	6,609
投資その他の資産	20	移行前地方債償還債務	8,466
流動資産	8,453	引当金	6,811
現金・預金	3,682	長期リース債務	48
未収金	4,564	流動負債	6,070
貸倒引当金	▲ 31	1年以内返済予定長期借入金	1,482
医薬品等	212	1年以内返済予定移行前地方債債務	1,471
その他	26	1年以内返済予定リース債務	36
		未払金	2,122
		賞与引当金	712
		その他	246
		負債合計	29,451
		純資産の部	金 額
		資本金	306
		資本剰余金	20
		利益剰余金	828
		純資産合計	1,154
資産合計	30,605	負債・純資産合計	30,605

(3) 病院別

(単位:百万円)

区 分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	老健・看護・本部	計
経常収益	7,733	2,244	2,062	4,288	8,417	676	25,421
(前年度比)	107.7%	111.3%	120.6%	106.8%	101.1%	108.8%	106.5%
うち医業収益	5,838	1,269	857	2,859	6,157	0	16,980
(前年度比)	98.5%	95.7%	99.3%	96.1%	97.6%	0.0%	97.6%
経常費用	7,352	2,065	1,675	3,946	8,458	1,005	24,501
(前年度比)	102.6%	101.9%	103.2%	99.0%	102.8%	103.1%	102.1%
経常損益	381	179	387	342	▲ 41	▲ 328	920
(前年度差)	370	189	300	316	▲ 138	25	1,063
純損益	379	179	383	339	▲ 43	▲ 328	909

○信州医療センター : 受診控え等により医業収益は前年度比で▲1.5%となったが、病床確保料等(5億6千5百万円)の補助金収益により、経常収益は前年度比+7.7%。

高額な医療材料を使用した手術の増加により材料費が増加し、経常費用は前年度比で+2.6%の増加。

純損益は3億7千9百万円の利益を確保。

○こころの医療センター駒ヶ根 : 空床確保に伴う退院促進の実施と緊急事態宣言発令による任意入院の減少の影響により、医業収益は前年度比で▲4.3%。

病床確保料(8千7百万円)の補助金収益により、経常収益は前年度比+11.3%。経常費用は+1.9%。

純損益は1億7千9百万円の利益を確保。新型コロナウイルス病床確保補助金等収益を除いた場合でも2千6百万円の利益を確保。

○阿南病院 : 常勤整形外科医の不在、コロナ患者受入に伴う空床確保の影響により、医業収益は前年度比で▲0.7%。病床確保料等(3億8千2百万円)の補助金収益により、経常収益は前年度比+20.6%。

常勤整形外科医の不在に伴う非常勤医師採用や、訪問看護ステーション開設に伴うスタッフ増員により給与費が増加し、経常費用は前年度比で+3.2%。純損益は3億8千3百万円の利益を確保。

○木曽病院 : コロナ患者受入に伴う空床確保の影響により、医業収益は前年度比で▲3.9%。病床確保料等(4億1千万円)の補助金収益により、経常収益は、前年度比で+6.8%。

時間当たり採算指標等(アメーバ経営)の運用等による経費削減の取組の結果、経常費用は前年度比で▲1.0%。

純損益は3億3千9百万円の利益を確保。

○こども病院 : 新型コロナウイルス感染拡大に伴う県外からの入院患者の減少等の影響により、医業収益は前年度比で▲2.4%。

病床確保料(2億1千5百万円)の補助金収益により、経常収益は、前年度比で+1.1%。職員の計画採用に伴い経常費用は前年度比で+2.8%となり、純損益は4千3百万円の損失。

4 延患者数の状況

(単位:人)

入 院	R2	R2計画	見込-計画	R1	R2-R1
全 体	216,067	246,686	△ 30,619 (87.6%)	239,758	△ 23,691 (90.1%)
信 州	76,307	90,432	△ 14,125 (84.4%)	88,977	△ 12,670 (85.8%)
駒ヶ根	34,779	38,228	△ 3,449 (91.0%)	37,400	△ 2,621 (93.0%)
阿 南	14,680	15,980	△ 1,300 (91.9%)	17,053	△ 2,373 (86.1%)
木 曾	40,782	47,473	△ 6,691 (85.9%)	43,681	△ 2,899 (93.4%)
こども	49,519	54,573	△ 5,054 (90.7%)	52,647	△ 3,128 (94.1%)
外 来	R2	R2計画	見込-計画	R1	R2-R1
全 体	372,020	396,923	△ 24,903 (93.7%)	401,108	△ 29,088 (92.7%)
信 州	111,308	117,462	△ 6,154 (94.8%)	120,749	△ 9,441 (92.2%)
駒ヶ根	39,037	37,510	1,527 (104.1%)	41,189	△ 2,152 (94.8%)
阿 南	47,565	48,080	△ 515 (98.9%)	46,882	683 (101.5%)
木 曾	109,849	124,233	△ 14,384 (88.4%)	125,512	△ 15,663 (87.5%)
こども	64,261	69,638	△ 5,377 (92.3%)	66,776	△ 2,515 (96.2%)

- 信州医療センター : <入院患者数>
 新型コロナウイルス感染症の影響による受診抑制、救急患者の減少、結核病棟のコロナ対応病棟への転用による患者減少
 <外来患者数>
 受診控えや紹介患者の減少
- こころの医療センター駒ヶ根 : <入院患者数>
 空床確保に伴う退院促進の実施と緊急事態宣言発令による任意入院の減少
 <外来患者数>
 デイケア受け入れ停止により患者数が減少（7月から全面再開し、コロナ以前の水準を確保）
- 阿 南 病 院 : <入院患者数>
 常勤整形外科医の不在、コロナ患者受入に伴う空床確保の影響により減少
 <外来患者数>
 訪問看護ステーションさくらの開設、天龍村への巡回診療の実施による患者確保
- 木 曾 病 院 : <入院患者数>
 コロナ患者受入に伴う空床確保の影響により減少
 <外来患者数>
 患者の受診抑制等による減少
- こども病院 : <入院患者数>
 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言等に従い入院抑制を行い県外からの患者が減少
 <外来患者数>
 同上

5 患者1人1日当たりの診療単価の状況

ア 入院単価

	R2	R1	R2－R1
信州	49,596円	43,532円	6,064円 (113.9%)
駒ヶ根	28,258円	27,432円	826円 (103.0%)
阿南	29,671円	28,291円	1,380円 (104.9%)
木曽	36,326円	36,992円	▲ 666円 (98.2%)
こども	105,847円	102,667円	3,180円 (103.1%)

イ 外来単価

	R2	R1	R2－R1
信州	16,096円	14,887円	1,209円 (108.1%)
駒ヶ根	7,029円	6,986円	43円 (100.6%)
阿南	8,972円	7,066円	1,906円 (127.0%)
木曽	11,664円	10,040円	1,624円 (116.2%)
こども	13,081円	12,681円	400円 (103.2%)

○信州医療センター : <入院単価>

高額材料を使用した手術及び高額薬剤治療の増加による単価増

<外来単価>

化学療法に用いる高額薬剤治療の増加による単価増

○こころの医療センター駒ヶ根 : <入院単価>

児童精神科病棟患者の増加による単価増

<外来単価>

前年度並み

○阿南病院 : <入院単価>

急性期看護補助加算の取得やコロナ患者受入れによる単価増

<外来単価>

訪問看護ステーションの開設による単価増

○木曽病院 : <入院単価>

コロナ患者受入に伴う空床確保の影響による単価減少

<外来単価>

許可病床200床未満への削減や在宅療養支援病院の取得による単価増

○こども病院 : <入院単価>

高額薬剤（注射薬）の使用増、病棟運用変更による単価増

<外来単価>

高額薬剤の使用による単価増

6 病院の主な取組事項

(1) 信州医療センター

- ・ 感染症医療の中核病院として、新型コロナウイルス感染者の積極的な受け入れ等、感染症拡大に対応
- ・ 総合内科医の養成のため、信州大学との寄附講座の設置に関する協定締結や、特定行為ができる看護師の育成により、県の医療水準向上に寄与
- ・ 産後の母親を支援する産後ケア「須坂モデル」の実施により、産科医療の充実に寄与
- ・ AI問診の導入(総合診療科外来)により、患者満足度の向上と業務効率化を実現
- ・ 働き方改革への対応として、看護職員ユニフォーム2色制の導入により、業務の利便性を向上

(2) こころの医療センター駒ヶ根

- ・ 精神疾患があり、かつ新型コロナウイルス感染の疑いがある患者の受け入れや、感染症クラスターが発生した1医療機関へDPATを派遣
- ・ 児童・思春期、青年期の子どもに関する課題への対応を図るため、令和6年度開設予定の「子どものこころ総合医療センター(仮称)」について、専門病棟、小規模デイケアの新設と人材育成に向けた検討を開始
- ・ 令和3年度のm-ECT治療のセンター化に向け、施設改修を開始
- ・ ゲーム・ネット依存症患者に対し、専門チームにより独自の治療プログラムの開発を検討するとともに緊急避難的・試行的な入院治療を開始(県内初)
- ・ 認知症疾患医療センターにおける専門医療相談等を開始(令和2年4月1日指定)
- ・ 長野県における薬物及びギャンブル等依存症の治療拠点として、7月に県が「依存症専門医療機関」、「依存症治療拠点機関」に指定

(3) 阿南病院

- ・ 4月から新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを開始。他地域の新型コロナウイルス感染症患者を積極的に受け入れるなど感染症医療を提供
- ・ 「訪問看護ステーションさくら」を令和2年4月1日に開設し、地域の在宅看護の提供体制を充実
- ・ 阿南町和合地区に加え、無医村となった天龍村において、4月から週1回の巡回診療を実施
- ・ 地域包括ケア病床(16床)を令和3年3月から本格的に稼働開始

(4) 木曽病院

- ・ 第二種感染症指定医療機関として、他地域の新型コロナウイルス感染症患者を積極的に受け入れるなど感染症医療を提供
- ・ 在宅療養中の患者ニーズに応えられるよう緊急時の連絡体制並びに 24 時間往診及び 24 時間訪問看護の提供が可能な体制を確保したことにより、令和 2 年 7 月に在宅療養支援病院を開始
- ・ 準地域医療人材拠点病院に指定（令和 2 年 4 月 1 日）。令和 3 年 3 月に木曽町みたけ診療所に医師 1 人を派遣
- ・ 令和 3 年 4 月開設に向けた歯科口腔外科の診療体制の準備及び施設整備の実施
- ・ ビデオ通信機能を使用したオンライン診療の試行（小児科）

(5) こども病院

- ・ 小児の新型コロナウイルス感染疑いがある患者の受け入れ
- ・ ニューロケア（神経治療）センターを令和 2 年 10 月に開設し、複雑で高度化した神経機能の疾患に多職種連携で対応
- ・ 医療ケアを自宅で継続するため、訪問診療センターによる訪問診療を充実
- ・ あたまの形外来をはじめとした最近の小児患者のニーズに対応した診療体制を構築
- ・ 小児アレルギー患者の診療・支援体制の構築

7 今後のスケジュール

- ・ 6 月 29 日 財務諸表等と業務実績等報告書を知事（健康福祉部長）に提出
- ・ 7 月～9 月 評価委員会の意見を聴いて知事が評価
- ・ 9 月 知事は評価結果について県議会へ報告